京都教区時報

第61号
発行所
京都市中京区河原町三条
カトリック京都司教区
広報室（Tel 211-3768）
編集責任者　村上透磨
編集部　教理センター
田中司教認可

小教区の頁 ― 河原町教会

聖ベルナデッタ帰天百周年記念

四月二十二日、夜来の雨もすっかり晴れわたった日曜日午後二時から、ヌヴェール愛徳およびキリスト教的教育修道会（通称ヌヴェール愛徳会）日本管区においては、聖ベルナデッタ帰天百周年記念式典がとり行われた。

先ず、同修道会を設立母体とする京都藤森の聖母学院中、高等学校の講堂において、感謝のミサがささげられた。ミサは、教皇大使、マリオ・ピオ・ガスパリ大司教を主司式者として、京都教区長田中健一司教、前京都教区長古屋義之司教、カルメル会司祭奥村一郎師、大阪教区司祭前田朴師ほか二十余名の司祭による共同司式で行われた。はじめに、司会のシスター真隅（ヌヴェール愛徳会修道女）によって、ミサの趣旨がのべられた。ついで千余名にのぼる参列者の「たて琴をかなで」の入祭の歌の斉唱によって、ミサ聖祭がはじめられ、喜びと荘厳さのうちに三時三十分、終了した。説教は田中司教によって行われ、ミサの最後に、教皇大使より祝辞が、主催者のヌヴェール愛徳会日本管区長シスター安藤より感謝のことばが述べられた。

式場には、中央祭壇左側壁面全体に聖ベルナデッタの生涯を簡潔に伝えるパネルが展示され、写真と短い説明によって、参列者一同に聖女の深い霊性を偲ばせた。また、聖母女学院短期大学聖歌隊とヌヴェール愛徳会修道女による聖歌共唱は、一そう喜びのふん囲気を高めた。

ミサ聖祭終了後、ヌヴェール愛徳会の日本における福音宣教とゆかりの深いパリー外国宣教会司祭で、聖ベルナデッタの帰天百周年を記念して出版された伝記『ベルナデッタ』（ルネ・ローランタン原著）の翻訳者であるミルサン師によって、一時間にわたり、「ベルナデッタとわたしたち」と題する記念講演が行われた。なお、同日は、主催者ヌヴェール愛徳会より、参列者全員にたいして、記念品として、ミルサン師訳の同伝記が贈呈された。

四時半、すべての記念行事が終了したあと、参列者全員のために茶話会が催され、教皇大使をかこんでなごやかなふん囲気のうちに歓談した後、五時半頃散会した。

教区短信

▽五月十七日㈭～六月一日㈮　FABC（アジア司教協議会連盟）司教研修会　於・フイリピン―インド・パンガロー
▽五月十八日㈮　カリタス・ジャパン担当者会議　於・東京
▽五月二十日㈰　親交会　午後二時、於・西院教会
▽五月二十七日㈰　松阪教会創立二十五周年　式典午後一時
▽六月十日㈰　安土セミナリオ跡ミサ　於・滋賀県安土町
▽六月十一日㈪　教区事務担当司祭会議　於・東京
▽六月十二日㈫～十六日㈯　司教協議会総会　於・東京
▽六月十七日㈰　奈良教会堅信式
▽六月十八日㈪　邦人教区司祭月例会　於・カトリック会館
▽六月二十四日㈰　西院教会堅信式
▽七月一日㈰　大和高田教会巡礼団司教座聖堂参詣
▽七月二日㈪　司祭評議会定例会議　於・カトリック会館
▽七月八日㈰　九条教会堅信式

聖母カテキスタ創立25周年 5月3日

晴天に恵まれた五月三日、午後一時より、京都カトリック会館六階ホールに於いて、聖母カテキスタ会創立二十五周年記念行事が、京都地区会員の主催で行われた。

この行事のプログラムの第一部は、田中司教の祝辞に続いて、名古屋本部より創立者ゲマインダ神父、吉川総長、鈴木京都地区長の感謝の挨拶があった。その後スライドによって現代にふさわしく起されたこの会のあゆみと、現在日本の各地、及びインドネシア、ブラジルに広がる会員の働き等が紹介された。

第二部では、歌集「平和を祈ろう」の作詩、作曲者であるフランシスコ修道会のブラザー末吉とブラザー佐藤を、聖母カテキスタ学院の卒業生として桐生から招き、二人を囲んで数台のギター伴奏のもとに、神への讃美、兄弟姉妹との出合いの感謝が一つの歌声となって、いつの間にか時が流れた。会場には、司祭、修道女をはじめ、京都はもちろん、東京、大阪、神戸、三重、滋賀から若い男女の信徒が百二十名余り集った。ホールは満員であるにもかかわらず、心は全く静けさの中に祈りに引き込まれるような、よろこび、感謝、讃美に満たされていた。一人一人の目が生き生きと輝き、互いに心と心で握手したような雰囲気の内に、午後四時になり、田中司教、創立者ゲマインダ神父の祝福のもとに閉会した。

人権を考える祈るミサ

第二回「人権を考え祈るミサ」が、四月一日、京都河原町教会において捧げられた。

これは、昨年十二月三日に、正義と平和京都協議会主催で行なわれた第一回「人権を考え祈るミサ」の後、これに参加した団体の代表者の集りで、この催しを今後も継続してやりたい、この集いの輪を少しずつ広げていきたい、今後は年に二回にしてはどうかといった強い希望が出されたことに基づいて行なわれたものである。

その後、正平協が中心となって、京都市内の各種の活動団体に呼びかけ、それらの代表者が何回か話し合いを重ねた結果、SVP、子羊会、CLC、カトリック学連、正平協、教理センターの六団体主催で開催されることになったものである。

当日は、司祭、修道女、信徒合せて約六十名が参加したが、第一回と同じように車椅子で参加した人もあった。

ミサに先立ち、午後一時からカトリック会館六階ホールで「私達は隣人を大切にしているでしょうか」というテーマで話し合いの集いがあった。先ず、開会の挨拶、続いて聖書朗読（ペトロ第一の手紙第一章）があり、暫し沈黙の後、主催六団体の代表から各団体の活動を通じて、隣人に対する愛についての問題提起があった。引続き、参加者は四つのグループに分れて、約一時間に亘って討論を行った。そして、各グループの討論のまとめが発表された。

午後四時、全員聖堂に移り、田中司教越知師、村上（透）師によりミサが捧げられ、田中司教の、世界における矛盾、差別と神の愛についての説教があった。

終了後、秋に行なう「第三回人権を考え祈るミサ」の準備をすすめることを確認して散会した。

南婦連総会

四月十九日（一時）、河原町教会に於いて、悪天候にかかわらず、約60名出席、南婦連総会が開かれた。ミサに続く総会の席上、司教は「広くアジア、世界の教会に目を向ける様に」と話された。続いて53年度事業、及び経過報告が行われ、又南壮連、南信連及び京都教区信徒連合協議会についての説明があり、今年度役員が紹介された。会長、坂本（桃山教会、以下敬称略）副会長、（山科教会担当）会計、岡田、安田（河原町）以上の方々。最後に、村上（真）師より、「この様な集いに参加する事さえ犠牲を伴う事と思うが、教区のためにも、みな協力し、喜んで奉仕活動出来るよう頑張ろう」との励ましの言葉があり、午後四時頃閉会した。

教会だより

峰山教会献堂式

四月二十九日、丹後峰山にカトリック教会が完成、盛大な献堂式が行われました。午後一時、司教様とレデンプトール会、メリノール会の神父様方十名余、大勢の侍者をしたがえて聖堂の祝別献堂ミサが始り、聖母訪問会のシスター方の応援も得、美しい聖歌は聖堂より流れ、荘厳な儀式とともに町の人々の注目をあつめました。花束、感謝状、記念品の贈呈と進み、庭に張られたテント会場では地元の信者をはじめ、北部教会からの各代表方、峰山町出身で京阪神から帰丹された方々で百数十名、美天久留神父様、峰山町長様の挨拶があり、レデンプトール会管区長キャンベル神父様の先導で一同乾杯し和気あいあいのうちに午後五時終了致しました。

三十年もの長い年月、夢としていた教会献堂式を無事に終了出来た今日の心は感謝の気持ちで一ぱいです。

教会建設に御協力下さいました方々に深く〳〵お礼を申し上げます。

教会学校責任者会議

田中司教がこの日の講話で私達に促がされた事を始めに記しておきたい。私達教会学校教師の仕事は、信仰の恵みを最高のものとして子等に伝えてゆくと云う大人にとっても最も大切な仕事の一つであると云う事。社会構造の矛盾を感じながらも、子供達と一緒に勉強しながら、人間の召されている完成へと進む事。贖い主に在すキリストへと向う回心と信仰の有難さを思い、贖罪を通して信仰の髄をかみしめ伝えてゆく事。社会と人間の複雑化、とりわけ近代社会への移行の歳月の中での急激な変化、特に第二ヴァチカン公会議以後の諸問題等を、回勅に学びつつ21世紀こそ宗教者の出番である事の自覚を深める事。国際児童年の今年子供の自殺の多い現状を、子供のSOSをキャッチ出来ない大人の問題としてとらえる事。孤独な人々の増えている現代神様が私達一人一人をどんなに大切にして下さっているかという福音信仰を分ち合ってゆく事。殊に日本の精神風土に照らして、神は信仰を持っている者だけでなく、すべての人を救い給う大いなる者である事を、告げ知らせてゆく事。カトリックは諸宗教の中でも最も伝統ある兄貴格として、神様の復権、神の支配を開げるために旗をふる者として期待されている事。神は御言葉の種をまかれ、良い物を芽生えさせて下さる事に感謝しつつ、私達が直面している現在の多様な、問題について、充分に意見を交換し、共同体として改める所は改めつつ歩んでゆく事。概略この様なお話しであった。

然し、「京都教区教会学校教師会の在り方ー組織、目的、活動内容等」と云う議題が設定されてはいたものの、この日集った30名の人達の中一体どの位の人が真剣にこの問題について考えて来ておられたか。この議題について各小教区教会学校内に於て、何等かの討議、意見交換が行われたかどうか、はなはだ疑問である。

この活動を進めて来た教理センターのシスター米屋が、謙虚に一人よがりの面がなかったか、本当に求められているものは何かを知りたい」と云われた時、実に恥いる思いがした。

教理センターを中心に司祭評議会、カテキスタ会、信徒連合等各方面との緊密な関係を重視しつつ、京都各ブロックからの代表が選出され、一応のスタッフ編成がなされ、これまでの教理センターの活動、企画に一層の充実と前進が期待される。

心に刻みつけたい事は司教様がしめくくりの挨拶で云われた事であるが、自分自身を新たにしながら、神の民として各地に派遣された者の一人として自覚を強くもって、私達一人一人がこの前進に、充実に力を寄せ合わねばならないと云う事である。

各小教区教会学校の問題点と現状報告については一々明記出来ないが、いくつかの共通する問題点、傾向と云ったものを書き出してみる事にしたい。

一、ミサとの関連。子供の出席、教える内容、両面から、子供のミサを行っている所での問題、行儀の問題、ミサの理解の問題等。

一、カリキュラムの確立。この問題は生徒数との関連、典礼中心、教理中心と云った傾向との関連を含めて、苦労の多い問題である。

一、教師の確保、育成。これは極めて深刻な問題である。

一、父兄の理解。大人達の無理解に悩む教師が多い。

一、リーダー間の連絡と分ち合い。

一、英語教育、勉強指導等との関連。

一、未信者教育の問題。

一、研修の必要性。

其他様々な問題点を抱えつつ、暗中模索しつつ、ある現状の感が深い。

報告　西院教会　田中安弘

トレニングウェアの似合う司教様
南部近隣小教区運動会

四月三十日、朝から雨、運動会担当の桃山教会へは、朝早くから委員長能勢氏をはじめ役員達がつめかけ、プログラム変更等で大わらわ。十時の司教ミサ前に雨天体操場の準備をせんものと出かけて行った。朝十時より田中司教主式、滝野、藤堂、ウォルケン、村上諸師の合同ミサに始まり、聖母の体育館で競技が開始。

宇治、伏見、桃山、それに八幡を中心にした合同チーム、今年から数こそ少なかったが、九条も参加し、競技を競う結果今年は応援にも若い人の動員がまさった伏見教会が逆転優勝をとげ、昨年一位の宇治は二位、二位の桃山は三位、合同チーム四位と云う事になった。負けた桃山チーム曰く。主力を役員にとられた、来年は役なくがんばるぞ、司教様はこの会から送られたトレニングウェアで（とてもよく似合った）合同チームで大活躍。四時頃無事、友情をたしかめ合って終った。大切な事は、参加し、キリストにおける愛の一致を確かめ合う事である。

聖母学院、地元伏見教会、又参加された信者各位、また参加出来ずとも陰で協力された方々に責任者一同心より感謝している。

司教の足どり　三月～五月

3月
16 WCRP（諸宗教）平和研究集会（比叡山延暦寺）
17 聖母女子短大卒業式
18㊐聖母の家学園理事会、評議員会、同卒業式。ときわハウス訪問。
19 長岡幼稚園卒園式
20 司祭代表者会
21 教区内教会学校教師会
22 顧問弁護士と面談
24 大本本部・NCC訪問（諸宗教）
26～29 FABC東アジア会議（東京）
30 WCRP・立正佼成会本部訪問
31 宣教司牧司教委（東京）

4月
1㊐人権を考えるミサ（三条）
2 国際宗教同志会企画委（三条）
3 ラッキー管区長（M・M）来訪
4 長浜保育園父兄有志と面談
5 諸宗教勉強会（東京浅草寺）
7 米国オマハ市長ら来訪
10 司祭評常任委。司祭代表者会
12 聖木曜日、聖香油ミサ
13 聖金曜日
14 聖土曜日、復活徹夜祭
15㊐復活大祝日
16 京都朝祷会（YWCA）、教区付邦人司祭月例会
17 無宗教委員会（東京）
18 世界宗教者倫理会議第三回準備会（東京・法輪閣）
19 南婦連総会ミサ。教区修女連新役員来訪
21 大本代表、天理代表来訪
22㊐コリアンセンターミサ。聖ベルナデッタ百年祭ミサ（藤森）。大使一泊。
23 司祭有志の勉強会（津）
25 国際宗教同志会総会、研修講演会
27 教区内男女管区長会議（鹿ケ谷）
29㊐峰山教会献堂式
30 南山城隣接教会合同運動会（聖母）

5月
1 セントヨゼフ学院創立20周年式（津）
3 聖母カテキスタ会25周年京都地区の集い
5 高山右近受洗記念ミサ（大和榛原）
6㊐世界召命祈祷日（三条）
7 司祭評議会例会
8 メリノール会総会（東京多摩）
9 JMPC理事会（東京）
10 世界倫理会関係者会（明治神宮）
11～13 女子総長管区長会研修（山中湖）
14 教区付邦人司祭月例会

お知らせ

移動する方々へ

新しい年を迎え、また新学期を間近にして、学校、就職、転職などによる移動が、頻繁に行われる季節となりました。

毎年、一年間で三万以上（全信徒の一割ぐらい）の信徒が住居変更、移動しております。親しんだ教会を離れ、新しい教会共同体に入ることは、決して容易なことではないでしょう。

しかし、常に教会と結ばれ、キリストの息吹きに接していなければ、私たちの信仰は十分に力を発揮できません。そのため、教会では「転出」「転入」という手続きがあります。所属する教会に、移動する旨を届け出られて手続きを正確にして下さい。

そして、この混乱した世界にあって、キリスト者として生きて行く力にして下さいますように。（二月十六日付）

国内移動信徒委員会事務局

召命黙想会

日時　8月3日㊎午後6時～5日午後4時（2泊3日）
指導　福田師（フランシスコ会司祭）
対象　女性信者
会費　三〇〇〇円
定員　18名
締切日　7月22日（電話申込みも受付可）
場所　ヌヴェール愛徳会本部修道院
電話㈹一六四一―六六〇二

国際児童年記念講演シリーズ

(Ⅳ)日時　6月6日㊍10時30分～12時
テーマ「現代っ子と親子関係」
講師　中根冬雄氏京都少年鑑別所所長
(Ⅴ)日時　6月13日㊍10時30分～12時
テーマ「出来る子、出来ない子」
講師　辻井正氏
北野おもちゃライブラリー所長
会場　両回とも京都カトリック会館6階
会費　三〇〇円

教会学校リーダー研修会

日時　6月17日㊐2時～4時30分
テーマ　レクリエーション
講師　小林哲夫先生　YMCA
会場　信愛幼稚園　新館3階
会費　五〇〇円

夏期教会学校リーダー養成研修会

日時　8月10日㊎～12日㊐
毎日　午前10時～午後5時
（宿泊はしません）
場所　京都カトリック会館6階ホール
会費　毎日　一五〇〇円

祝花、供花、式場装飾
JFTD加盟店
オリジナル　フラワーデザイン
株式会社　桂花園
京都市西京区川島玉頭町41
TEL（075）381-5389・391-0301

製菓材料・舶来食品
和洋酒・修道院製クッキー
ミサ用ブドー酒
タキノ
〒604 京都市中京区錦小路通烏丸東入
電話（221）0976―7

教区ヴィジョン作りへの動き

邦人司祭提案

昨今、教会のヴィジョンとかイメージと云った問題が人々の口に上り始め、日本の教会でも、全国的な教会のヴィジョン作りを目ざし検討中である。京都教区でも、京都教区としてのヴィジョン（見通し、目標、在り方）を作る必要が感じられ、邦人司祭の間でも、越知師より、ヴィジョンを作るための具体的提案がなされ、三月十二日、邦人司祭月例会に於いて提案、検討された。

それによると起草のため三段階を取る第一、①司祭の各グループ、②修道女は各修道院で、③信徒連合（各小教区で話し合ったもの）④各活動グループで夫々話し合ったものをまとめる。これを約半年位かける。そのテーマは「京都教区における福音宣教」とし、其の際特に注目する観点を(1)今大切にしているもの、(2)今足りないもの（大切にすべきもの）に置く。

第二、先の四つのグループ合同で福音宣教の勉強と、それぞれ各グループで出された意見を出し合ってまとめて行く合宿をする。この合宿及びそこで出された意見を更に調整整理する期間を三ヶ月とする第三、司教が之等の成果に基づいて、新年又は四旬節に京都教区に於ける福音宣教の方針を発表し、実践に移す。

実行委員に司教と村上（真）師がなり、協力者を任命する。以上の提案に対し皆の賛同を得たが、次の様な補足的提案があった。

①第一段階を六ヶ月としているが、三ヶ月終ったところで一度それまでの各グループの話し合いの結果を報告してもらいそれを更に持ちかえって再検討する形にすればどうか。

②始める三ヶ月位前に、まず司教から、趣意書を出してもらう事、又時報等をこの報道に利用する事。

③平行して「福音宣教」等の研修会を持つ事。

④活動グループによる細かい吟味がなされる事を忘れてはならない。

⑤司祭評議会で検討し、了承を得てから実際に動くのがよいではないか等。

尚司祭評議会でこの議題は一応取り上げられたが、司教が全国司牧センターの草案を土台に趣意書を作り、実行委員会を設けて、京都教区の草案を作る様にとの要望があったが、まだ審議続行中である。

この様に見て来ると、ヴィジョン作りはまだ出来上っておらず、これからと云う感がある。仮に大ヴィジョンが、「神の国とその義を求める事」に置いたとしても、その具体的な、神学的裏付けに基づいたヴィジョン作りは慎重かつ賢明にすべきである。それにはまず祈ろう。祈りの中に作りあげるものであってほしい。

ヴィジョン作り

国際児童年記念特集（2）

神さまへのおねがい

聖マリア養護学校　山崎　信一

神さま
僕の右の手のきんちょうを取って下さい。
手袋とか粘土をする時に困ります。
神さま
何んで僕等の目を悪くするのですか。
眼鏡、かけたり、はずしたり、困ります。
僕はこの頃考えます。
何んで地球が回っているのに、僕達がまわらないのか。
教えてください。神さま
神さまは何んで戦争をおこしてしまいますか。
お願いですから、戦争や、けんかを失してください。
僕はこの頃考えます。
国のえらい人達が集まって、話し合いをしてみたらいいんじゃないかな。
僕達を、神様の家へ行かせてください
お願いします。
(注)　この詩は重症心身障害児の作です。
この詩もかたかなで書いた方が、本人の意向がもっとよく伝わるかも知れません。

聖母学院小　六年　松島　泉

ああとてもよい心地がもちたい。
きれいな心がもちたい。
どんな悲しいことにもたえられる心
そういう人のもちぬしになりたい。
どんな人にでもゆるしてあげられる
あたたかい心がもちたい。
私にどれかをさずけてほしい。
とりのぞいてほしい、
悪まのような心を…
そのかわりによい心を…
どうか私にさずけてほしい。
けなされ、仲間はずれになっても
ゆるせる心がほしい。
私には、その心があまりない。
私には、その心があまりない。
何年後でもよい
きれいな、あたたかい心を…。

ノートルダム小　荒川　純

かみさま、こんにちは、このノートルダムにきてよかったとおもいます。
なぜかというとぼくは、ようちえんでもかみさまのことをならっていました。
そしてこの学校でしゅうきょうをならうと聞いたのでうれしかったです。かみさま、ぼくからのお願いですけれど、ぼくは鼻が絶べきなので金がたまらないとお母さんが云っていますが、たまるようにしてください。ぼくはおとなになったらきかん車の運転手になりたいから、おねがいをかなえてください。ぼくはたたかれたりすると、すぐかっときます。だからかっとこないようにしてください。ぼくもがんばりますからよろしく、かみさまへ。

国際児童年

一番当り前なことなのだが、キリストを見失ってはならないと思う。それも本物のキリスト、教会が伝え、聖書の中にその言葉が書きとどめられたキリストを見失ってはならない。

キリストはこう云われるだろう。こうされるだろうと云うかたではない。使徒たちから伝えられた通りのかた、こう云われ、こう行われたかたであって、これが信仰の出発点となる。

キリストはひとりの人生論の最終の仕上げをするスパイスではない。人生論そのものに問いかけ、これをたじろがせ、何よりも悔い改めをもとめる生きた神のまなざしである。

聖書の話 11

信仰の出発点

キリストを沈黙させてはならない。みことばが沈黙すれば、ことばはいのちを失う。

キリストのいのちから離れてはならない。いのち、道、真理であるかたを離れて、どんないのちが残されると云うのだろう。

自分のいのちを救おうと思うものはこれを失い、キリストのため、その福音のために自分のいのちを失うものはこれを得る。これを文字通りに受けとめよう。キリストを見失ってはならない。

東門神父　河原町教会主任

小教区の頁

河原町教会

〝一八八〇年二月五日、日本二十六聖殉教者の祝日、下に署名する私、A・ビリヨン、中部日本の教皇派遣宣教師は、京都において、上（かみ）、高倉二条、普通の家の聖堂で、聖なる洗礼の秘跡を次のものに授けた。

1パウロ（三木）中村亀三（？）三十一才、大阪　本田通り出身、現住所　京都押小路

2ルドビゴ（茨木）古林正信（？）十三才、播磨、赤穂郡　龍賀（？）村出身　現住所、京都　教会居住。

河原町教会に保存されている洗礼台帳を見ると、この教会での最初の受洗者は、中村亀三（？）と云う押小路に住む人であった。一八八〇年（明治十三年）二月五日のこと、洗礼を授けたのは有名なビリヨン神父である。

神父が京都に来たのは、その前年九月のことであった。高倉二条上ルの民家が仮聖堂とされ、ここでの最初の洗礼が行われたのである。洗礼台帳の第一頁には、ペン習字の手本のような美しい字で、神父自身が次のように書いている。

彼等の代父は、ラウレンチオ西田芳松、宣教所在住。

続く台帳第二頁には、同年九月十七日、〝首座司教、中部日本宣教区長〟プチジャン師が〝下（しも）間屋町五条下ルの布教所〟で前記パウロ中村の妻、およし、二十九才、〝未信者山田金平の子、ミカエル山田米次郎　十四才　京都出身〟パウロ中村の二人の子供に洗礼を授けたとある。

ところが洗礼番号十三、十四は、翌八十一年二月十三日の松阪、十五は、十六日の津、十六、十七は十八日の近江土山での洗礼となる。こうした地方もビリヨン師の担当であったらしい。

現在の三条河原町に移るのは、台帳によれば、八十二年（明治十五年三月（その前の洗礼は前年のクリスマス前夜でまだ間屋町）である。洗礼番号五八に三月十二日に洗礼をうけたヨゼフ佐々木と云う幼児が記載されている。

旧聖堂（現在明治村）が献堂されたのは九十年（明治二十三年）五月一日のこと、そこでの最初の洗礼は守屋（森谷？）と云う四十三才の男性、このとき洗礼番号は五七二となっていた。この旧聖堂は一九六七年六月十八日まで用いられ、そこでの最後の洗礼は山田と云う十九才の女性、洗礼番号は八〇二九、旧聖堂時代七十七年間に七四五八人が受洗したことになる。

六十七年に完成した現在の聖堂が献堂されたのは、一九七二年十一月のこと。カトリック会館の完成に合わせて行われた。新聖堂になってから（一九六七年六月以降）の洗礼数は六五三となっている。

現在の主日のミサ出席数は六百～九百（ミサは六回）十時半のミサには、ほぼ満席となる（三百名以上）ことも稀ではない。九時、夕方の六時半が百、時には二百をこえる。

信徒の組織としては壮年男子を対象にヨゼフ会、既婚女性のマリア会、レジオ、ヴィンセンシオ会、聖歌隊、典礼部、土曜学校、高校生会、中学生会、ガールスカウト、ロザリオ会（十の地区集会）などがあり、青年の勉強会、若い母親の集いも行われている。これらを統括するものとして聖親会があり、ここ二年以来、毎月役員会がもたれるようになった。

年の行事としては、四旬節、被昇天前、待降節に、それぞれ六日間の早朝礼拝、年一回の黙想会、復活祭の懇親会、合同結婚記念、司教司祭への感謝の集い、クリスマス市民の集い（未信者のための前夜七時半からのミサとキャロル、千数百人が集る）などがある。また、毎月、機関誌イクトウスが発刊され、この四月で通算三三三号になる。こうした教会活動は、百名前後の熱心な信徒に支えられている。これには感謝の他はない。

最近では一時少なかった青年がふえ、こども達が教会に親しみはじめている。主任司祭としては、地区集会の活発化、各信徒グループの充実、生涯教育、共同体意識の形成を期待しているところである。

賦課金配分に関する案

―京都教区会計より

53年度賦課金収入	10,374,194
〃　支出	6,504,082
〃　残高	3,870,112 ※
54年度賦課金予算	13,870,112
	（※も含める）

賦課金の配分　1月―12月

（表1）

	53年度予算案	53年度使用額	54年度予算
事務所経費の一部（消耗・通信）	2300000	1519029	2000000
諸活動補助費（表3）	3000000	2403710	5000000
分担金支出（表2）	2200000	1581343	4500000
改築引当金	1000000	1000000	1000000
別途積立金			1000000
予備			370112
合計	8500000	6504082	13870112

分担金支出内訳

（表2）

	53年度実績	54年度予算
Y．B．U	130000	130000
中央協議会	840000	3500000
FABC分担金	61343	100000
ローマへの分担金	500000	500000
世界宗教者平和会議	50000	50000
諸宗教、エキュメニズム教誨師、その他		220000
計	1581343	4500000

教区諸活動補助費内訳

（表3）

活動会名	53年度予算	53年度使用額	54年度予算
正義と平和	300000	(1) 400000	350000
信徒使徒職	50000	3000	諸窓口費から
諸宗教	30000	6500	分担金支出から
エキュメニズム	50000	22000	分担金支出から
聖書週間	100000	30310	50000
広報	20000	32550	800000
学連	60000	(2) 106000	(3) 100000 100000
京都働く人の家	500000	500000	500000
大津働く人の家	360000	360000	360000
召命促進	200000	200000	300000
教誨師	100000	60000	分担金から
青少年司牧	700000	363350	地区活動費に含む
予備	530000		
要理教育	予備費から→	320000	300000
地区活動費	（主として青少年司牧）		（1500000）
京都南部			200000
〃　北部			400000
滋賀			300000
奈良			300000
三重			300000
諸窓口費			300000
予備			340000
	3000000	2403710	5000000

(1)　内10万円は京都での全国大会のための特別援助

(2)　内1万円は52年度の2ヶ月分。3万6千円は、全国大会出席のための特別補助

(3)　内10万円は全国大会のため

読者の頁　ダマスコ途上

信仰の試練

私は、最近信仰の試練と云うか、自分の中には仏教的な物がより深く流れているのではないかと思うのであります。読書に選ぶ本もそうした物が多いです。

毎週土曜日にテレビで視ていた外国映画〝大草原の小さな家〟は素晴しいものでした。主人公始め其家族すべてが正義と愛に生きる模範の人達でした。私は、此人達は何処か日本人の私とは違う。信仰というものがうわべだけのものでなく肌に滲みこんでいるという感じを受けました。よく考えた末、やはり彼等は超自然のお恵みを受けているからであろうか…。暫く神のお恵みから遠のいた信仰うすい罪人である私も、四旬節にあたり深く反省し、お赦しを頂き、主の御復活にあづかるお恵みを与えられますように祈りました。

尾鷲教会所属
老人ホーム赤羽寮　溝手恒子

雨　二題

少女とわれ二人きりなる早朝の
電車は走る雨の北大線

ぽんやりと雨の降る庭ながめをり
心うつろに歌ならぬまま

高野教会　小合　節（故人）
歌集「秋風万里」より

芽生え（十三）

――京都教区五十年をふり返って

古屋義之

京都の教会建設に、モルガンお雪が関係していると言えば、驚く人もあるでしょう。もしかして若い人たちは、モルガンお雪の名前も知らないかもしれませんが。彼女は京都の人で、明治の頃にアメリカの財閥の御曹子モルガン氏に見初められ、結婚した人です。当時ずいぶん話題となり、アメリカへ発つ日彼女を一目見ようと、京都駅はすごい人出だったとのことです。

このモルガンお雪さんが、夫の死後、年老いてから京都に帰ってきました。最初はアメリカから生活費が送られていたのですが、太平洋戦争のためにそれも跡絶えてしまいました。そのような苦しい生活が続いているとき、彼女を助けたのがマキロップ神父様でした。神父様はモルガンさんから返済してもらうことなど考えず、お金を貸しておられました。その内、彼女は神父様の暖い好意にも心を動かされたのでしょう、洗礼を受けました。

ところが、昭和29年にモルガンさんは夫の遺産を受け取ることができるようになりました。それで、今までお世話になったお礼にと、多額のお金を教区に寄付してくれました。そして、そのお金を元に衣笠教会が建てられたのです。

衣笠教会の話が出てきたので、その裏手にあるカルメル会の修道院や聖嬰会のことも触れてみましょう。

あの一帯は、元々ヴィアトール会が学校を建てる予定で購入した土地だったのです。しかし、グランドを作るのにも適当でないということもあり、結局学校は今の白梅町にできました。それで、そのあと空いた土地をカルメル会が譲り受けました。何しろ広い土地だったので、建物に必要な分だけを取って、残りの土地は置いておかれました。それを今度は、教区が墓地のために使うようになったのです。

モルガンお雪

先にお話したモルガンさんは、このカルメル会のためにも協力して下さり、修道院に入って生活したいという希望すら持っていました。そのために、モルガンさんのお墓がカルメル会の墓地の中にあります。もちろん、こんなことは特例で、あそこにモルガンお雪のお墓があることは、余り知られていないことです。

教区の墓地にも、ちょっとしたエピソードがあります。今では、ほとんど火葬ですが、当時はまだ土葬も多いものでした。それで、土葬の許可を取りに行くと海抜三百米以上でないといけないとのことです。ところが、あの辺りで三百米以上の所は坂の上だけでした。当初は、その坂もならして墓地にする予定だったのですが、土葬のためにそのまま使うようにしたのです。

聖嬰会は、初め河原町三条にあり、教会も以前の建物で、前の方は畳だったのですが、子どもたちもよくお祈りに来ていました。それが、今のところへ移ったのですが、カルメル会が自分たちの使っていない土地を心良く譲ってくれました。本当に欲のない人たちです。

最後に、三重県に老人ホームができたときのことを話しましょう。

この施設に尽力されたのは、スタインベック神父様ですが、土地を捜しておられる時のことです。或るおばあさんが、東の方にマリア様が教えて下さった土地がある、と言うのです。そして、本当にいい土地が見つかりました。ところがこのホームが現在の所に移されるとき、スタインベック神父様は、マリア様に守られた土地から動くことはできぬ、と猛烈に反対されました。本当に、神父様の熱心さにこちらまで"悪魔の手先"にされたのを記憶しています。

つづく

◆あなたは"黄昏"が好きですか。それとも"日暮""夕暮"ですか。"夕方"なんてのもあります。どちらにしても、茜、紫、墨色が実にあざやかです。これから夏へ向って夕焼もはりきります（亜）

◆柄にもなく観葉植物育てに凝るこの頃、朝な夕な鉢を眺めて悦に入っています。天地を創造なさった御父のお心がわかるような気がします。葵祭りも過ぎて緑深し。それにしては一寸薄寒い二三日（Y）

◆聖心の思いは、何んて書いたら、ぎくっとする方もおありかも、誰が之を書いたかとわかれば吹き出す人も？そやけどイエズスさんに、あんた好きやと云ってもらえたらどんなによろしいか（M・T）

◆奈良から大津に移ってはや二ケ月。近江富士がはるかに見え、比叡山、比良の山並みが雨に洗われて一段と美しい。こんなに自然をいつくしんで下さっている天の御父に賛美。（I）

◆雨ニモ負ケズ風ニモ負ケズ散髪屋サンノ説得ニモ　家族会議ノ要求ニモ負ケズ頭髪ヲ短カクシタトコロ　行ク先々デイタクモナイ腹ヲサグラレテイマス。ソンナニタイソウナコトデショウカネ（き）